

放菴没後60年記念展

小杉放菴 + 小杉小一郎



小杉放庵《水亭》1932年
当館蔵

小杉小一郎

9月14日[土] 2024年 11月17日[日]

主催=公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館/日光市/日光市教育委員会

休館日=毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日が休館となります)

開館時間=午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで)

料金=一般730(650)円、大学生510(460)円、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体割引料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、日光市公共施設使用料免除カードの交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料

※11月3日[日・祝]「文化の日」は無料開館 ※第3日曜日「家庭の日」(9月15日、8月20日、11月17日)は、大学生・専門学校生以下無料

※日光市民は一般300円、大学生200円、高校生以下無料

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 栃木県日光市山内2388-3

Tel.0288-50-1200 <http://www.khmoan.jp>



KOSUGI
HOAN
+
KOSUGI
KOJIRO

小杉小一郎《記憶された時(オマージュ YASUO KUNIYOSHI)》2017年 当館蔵

小杉放菴+小杉小二郎

小杉放菴(1881-1964)は今年、没後60年を迎えます。これを記念して、当館が開館以来収集してきた小杉放菴作品の数々から厳選した逸品をご紹介します。

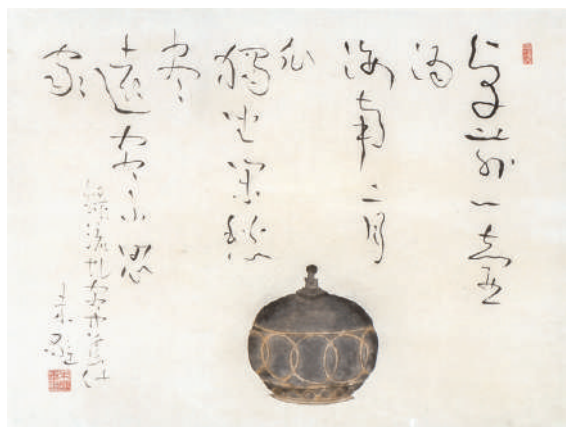
日光に生まれた小杉放菴(未醒)は、少年時代に五百城文哉の内弟子となつて洋画の基礎を学びました。やがて新進気鋭の洋画家として注目される存在となりますが、1913(大正2)年から翌年にかけてのヨーロッパ巡遊中、〈東洋〉に帰るべき道を見出します。帰国後、横山大観に誘われ、再興された日本美術院に参加し洋画部を牽引。同院脱退後、1922(大正11)年には今も続く洋画団体・春陽会を結成し、リーダー的存在として活躍しました。一方で、この間に数多くの日本画も描いており、単純に洋画時代、日本画時代と割りきることの出来ない点に、小杉放菴の美術史的な位置づけの難しさがあり、魅力が秘められているともいえるでしょう。

また本展では、放菴の孫である小杉小二郎氏から近年、当館に寄贈された5点の油彩画もあわせて公開いたします。1944(昭和19)年に東京で生まれた小二郎氏は、一旦はデザイナーとして就職しますが、放菴の友人でもあった画家中川一政からの影響により、画家になることを決意し、フランスへ渡つて学びました。1971(昭和46)年からサロン・ドートヌスに出品を始め、1974(昭和49)年には最初の個展を銀座で開催します。その後も30年以上フランスを拠点とし、日本との両国にまたがり活躍。フランスを離れた現在も、精力的に制作を続けています。

放菴・小二郎の二人展は、当館では初めての試みとなります。祖父から孫へ受け継がれたものは何か、両者の絵が並ぶことでどのような空間が生まれるのか。ぜひ会場でお確かめください。



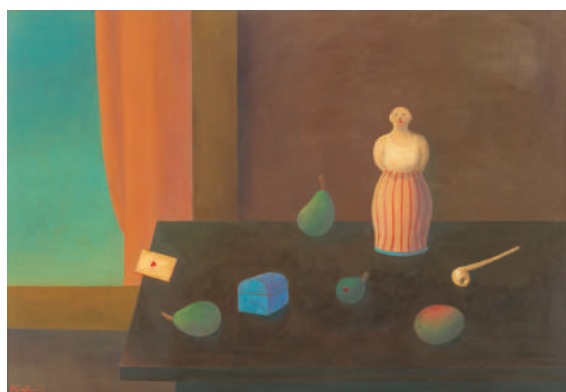
1—小杉未醒《スエズ運河の岸のアラビヤ人》1913年 当館蔵
 2—小杉未醒《一壺酒》1922年頃 当館蔵
 3—小杉未醒《新緑林泉》1910年代後半 当館蔵
 4—小杉小二郎《ロシア人形と果物》2016年 当館蔵
 5—小杉小二郎《雪のセース河畔》2017年 当館蔵



2



3



4



5

●学芸員によるギャラリー・トーク(予約不要・要入館料)

2024年9月14日[土]、11月17日[日]
 各時間=午前11時より(1時間程度)

※参加方法:入館券をお求めのうえ、お時間までにお集まりください。なお駐車料金の払い戻しは通常通り2時間までとなりますので、ご注意ください。

●次回予告

生誕100年記念 古橋義朗展
 2024年11月30日[土]~2025年2月2日[日]



●会場・交通案内

◎電車=東武日光駅、JR日光駅から東武バス「世界遺産めぐりバス」もしくは奥細尾、清滝、中禅寺温泉、湯元温泉方面行バス5分。「神橋」停留所より徒歩3分。
 ◎車=日光宇都宮道路・日光インターから約2km
 ◎駐車場=併設の市営神橋駐車場をご利用ください(普通自動車1回1,000円)。美術館受付で駐車券をご提示いただくと、2時間まで払い戻しとなります。



小杉放菴記念日光美術館